

第3回総合戦略推進委員会

要点記録

日時：平成30年8月17日（金）
午後6時30分～8時00分
会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 平成29年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について
 - (2) 重要業績評価指標（K P I）の変更等について
 - (3) 平成30年度（平成29年度事業）昭島市総合戦略評価報告書（案）について
 - (4) 計画期間の延伸について
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

事前送付資料

- ・平成30年度（平成29年度事業）昭島市総合戦略評価報告書（案）

机上配布

- ・重要業績評価指標（K P I）の変更等について
- ・第2回総合戦略推進委員会要点記録
- ・自治体連携面接会実施状況

ハローワークからの資料

- ・「シニア応援コーナー」の取組み
- ・「マザーズハローワーク立川」の取組み

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）

副委員長・・・八戸和子（立川公共職業安定所）

委員・・・水野宏一（昭島市商工会）、沼崎明大（多摩信用金庫）、勝見真之（連合多摩中央地区協議会）、樽松洋（公募市民）、山内昭裕（公募市民）

事務局・・・山下企画部長、萩原企画政策課長、小川子ども育成課長、枝吉企画調整担当係長
高橋主任

1. 開会

○事務局より配布資料等の確認

2. 議題

(1) 平成29年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価について

①前回会議において質問等のあった事項について

○事務局より資料に基づき、説明

委員長・・・ 前回の会議における質問等に対する回答について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

勝見委員・・・ リーダーズクラブには地域の子ども会は関わっていないのか。

小川子ども育成課長・・・ 小学生のリーダー講習会には関わっていただいている。

勝見委員・・・ チラシ以外でも子どもたちが集まる方法も検討されたい。

委員長・・・ リーダーズクラブの38名については、貴重な若い人材といえるので大切に育成していただきたい。

事務局・・・ 就職フェア I n 昭島について、面接会の回数と参加者数が増加していることに加え、面接数378名に対し採用者数100名ということで比較的多くの方が市内企業に就職しており、また、全採用者数100名のうち、昭島市内在住の方の採用者数が55名と、多くの方がこの事業を契機に就職している。事業の成果が上がっていると考えられることから、そのところも報告書でふれていきたい。

勝見委員・小川子ども育成課長退席

②ハローワークより配布の追加資料について

○八戸副委員長より資料に基づき、説明

委員長・・・ 就職フェア I n 昭島もそうだが、地域密着でハローワークと連携した取組の成果が出ているということは、ニーズもあると考えられるため、より一層の連携をお願いする。

③基本目標4「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」について

○事務局より資料に基づき、説明

委員長・・・ 基本目標4は、総合戦略における基本目標1から3までの基盤となるような目標である。各施策が多岐にわたるが、個別事業で構わないので、ご意見を伺いたい。

山内委員・・・ 雨水浸透施設設置費用の助成事業と雨水貯留槽助成事業の違いをお伺いしたい。また、雨水浸透施設設置費用の助成事業は新築及び立替時には適用されないところがあるがどのような場合適用されるかを確認したい。

事務局・・・ 雨水浸透施設設置費用の助成事業は、雨水を地中に浸透させるための施設を設置する際に費用を助成する事業であり、既存の家屋が対象となる。雨水貯留槽助成事業は雨どい等から雨水を貯留槽にためることにより、飲用とはならないが植木の散水等に利用することにより、水道水の削減等を目的とするものである。その貯留層を設置する際の費用を助成する事業である。

委員長・・・ 新築の際には、希望する方がいるかもしれないが、既存の家屋にこれだけの施設を設置するとなるとかなりの動機付けがないと設置しないのではないかと考える。

山内委員・・・ これらの助成は昭島市だけか。

事務局・・・ 他の自治体でも取り組んでいる。

市としては、深層地下水100%の水道水や湧水等、水資源の保護に重点を置いているため、総合戦略においても水の利活用を推進するという観点から、これらの事業を位置づけている。

山内委員・・・ 東京の地面はコンクリートで覆われていて、雨水がすぐに川へ流れてし

まうので、地面に水を浸透させることを推進するといったこのような取組はとても良いことだと思う。

事務局・・・学校にも天水尊が普及し、雨水貯留層が各校に設置され、花の水遣りを行うなどの取組を行っている。

委員長・・・この事業は一般家庭が対象で、施設などは対象ではないのか。

事務局・・・お見込みのとおりである。

水野委員・・・宿泊費助成事業について、岩泉町への宿泊費の助成額を引き上げたことにより、かなり利用者が伸びたとのことだが、そのうち、岩泉町への助成利用者はどれくらいか把握しているか。

また、利用者が増加していることから、K P I の見直しについても検討が必要と考えるが、いかがか。

委員長・・・助成額を3,000円から5,000円に引き上げた理由も併せてお聞きしたい。

事務局・・・岩泉町への利用者は大体60名程度と捉えている。岩泉町とは友好都市協定を締結しているが、平成28年台風10号により甚大な被害が発生したことを受け、復興支援の観点から助成額の見直しを行い、利用促進を図った。

また、本事業は市民団体の利用も多く、その利用数が実績値に大きく影響する面がある。平成28年度の実績値が目標値から大きく下回ったのも、大口の団体が研修旅行の行き先を変えたことなどが要因の一つとなっている。K P I の修正については、今年度の団体利用等も含めた状況を注視しながら、慎重に検討していきたい。

委員長・・・昭島市内だけで水や緑の大切さを感じるには限界があり、奥多摩町や岩泉町などに赴くことで自然との繋がりをさらに感じることでできる。その意味で他地域との連携には意義があり、環境との共生を掲げる本事業が基本目標4に位置付けられていると考える。さらに、復興支援や被災地支援などにも繋がっていけば、より意味のあるものになると考える。

委員長・・・自主防災組織への初期消火資器材貸与事業におけるスタンドパイプとはどういうものか。

事務局・・・道路上にある消火栓とホースを繋ぐスタンド型のパイプである。とても軽く、持ち運びも容易であるため、自治会ごとに常備し初期消火に役立てる。近くで火災があったときに使用するためではなく、広域災害の際に使用することが目的となっている。そのための訓練も自治会ごとに行っている。

保管場所などの課題があり、貸与できていない自治会もあるが、空白地域を埋めるよう周辺の公共施設等への配備も検討しながら、貸与に努めていく。K P I の目標値については、平成29年度までに100%となっているが、事業としては今後も継続し、目標達成に向け、引き続き評価対象としたい。

樽松委員・・・奥多摩・昭島市民の森事業について、小学生の参加には父兄同伴であること、また、昼食持参も参加条件にあったと記憶している。参加条件が厳しく、草刈りだけやって終わってしまう印象もある。もう少し楽しいイベントなどがないとなかなか人が集まらないのではないのか。もっと魅力的な事業を考えてみてはいかがか。

事務局・・・奥多摩町や都立の施設を利用してレクリエーションは行っている。楽しめるイベントをしながら森林保全について体験していただき、併せて水源地に対する理解を深めることも目的としている。

山内委員・・・ 父兄同伴だと敷居が高いと感じるので、たとえば、高齢者のボランティアが子どもを見守るという考えはないか。

事務局・・・ 安全上の理由から保護者同伴をお願いしているが、現地で高齢者の方にご協力をいただき、指導を受けたり見守りをお願いすることについては、担当課にも伝え検討したい。

水野委員・・・ 私は、2回ほど参加したことがあるが、眺望も良く、一般の車両では入れない場所へもいけるので、ぜひ一度行ってみたい。

委員長・・・ 今年であれば酷暑の中、子どもが参加する事業については気を使うことも多いと思うが、時期等の検討やサポーターなどの活用を検討していただき、事業の発展を期待したい。

沼崎委員・・・ 空き家対策について、空き家率や対象物件の所有者のことなど、昭島市の特色的なことがあれば伺いたい。各自治体が空き家対策に力を入れ始めていて、空き家の少ない自治体については予防に力を入れるなど、自治体ごとに目標を定めて対応を図ると思うが、昭島市でも地域の実態に合わせた実効性のある施策を展開していただきたい。

また、まちのにぎわい再創出事業で空き店舗を活用した創業に助成を行っているが、空き家を活用した創業にも対象枠を広げてみてはいかがか。

事務局・・・ 本日、第一回目の空き家対策庁内委員会が開催され、これまでの調査状況の報告があった。市内にある空き家は、昨年の段階で158件とのことであった。その中でも朽ち果ててしまいそうな危険度の高いものから、住んではいけないものの管理はされているものまで幅広い状況である。今後危険度を勘案し、優先度を考慮し対応していくこととなる。

また、創業支援事業における空き家の活用については、所有者に対する意向調査結果を踏まえながら市として検討をしていく予定である。

委員長・・・ K P Iについては、どういう方向で空き家対策を実施するかで目標値が変わってきてしまうので、今後の検討委員会の方向性等を踏まえながら、慎重に議論していきたい。

利活用できるストックとしての空き家と、危険なのですぐに対応しなければならない空き家などで分類する必要がある。ようやくスタートしたところなので今後に期待したい。

齋藤委員・・・ 地域ケア会議の開催から地域密着型サービスの充実までの6事業について、目標値が平成29年度までしかないが、平成30年度以降の目標値はどうするのか。

事務局・・・ この6事業については、昭島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画に基づいた高齢者支援のための事業を位置づけている。計画自体が平成27年度から平成29年度の3か年計画であるため、総合戦略策定の段階では平成29年度までしか目標設定を示すことができなかった。今後は新たな計画に基づき平成30年度以降の目標値を設定することとなる。

齋藤委員・・・ 自主防災組織リーダー育成事業と自主防災組織への初期消火資機材（スタンドパイプ）貸与事業についても、目標値が平成29年度までしかないが、平成30年度以降の目標値はどうするのか。

事務局・・・ 総合戦略策定時において、自主防災組織リーダー育成事業と自主防災組織への初期消火資機材（スタンドパイプ）貸与事業についても平成29年度を目標年度として事業を進めてきた。先ほども触れたが、目標値の100%に達していないことから、目標値をどのように設定するかは課題となるが、

事業は継続して行う。

齋藤委員・・・ 自主防災組織リーダー育成事業については、今後も100人を指すということでは、いかが。それならば、平成30、31年度も目標値を示したほうが良いと考えるがいかが。

事務局・・・ 次の議題と関連するが、基本目標1から基本目標3までのKPIの変更等については、これまでいただいた意見をまとめてある。今回、平成29年度で目標設定が終わっている事業の次年度以降の取扱いについて、ご意見をいただいたので、庁内推進委員会で議題とし検討していきたい。

委員長・・・ おそらく表記上の問題の部分もあると思うが、誤解のないよう、わかりやすい表記をお願いしたい。

事務局・・・ 併せて介護保険事業計画に基づく変更に関しても同様の取扱いとした。

齋藤委員・・・ いきいき健康ポイント制度について、目標値を大きく上回っているがこちらのKPIの変更はどうか。

事務局・・・ こちらもKPIの修正について検討させていただく。

委員長・・・ とても応募者が多かったが何か理由があるのか。

事務局・・・ 制度をスタートさせてから、途中で高齢者枠を拡充したため、応募者の増加に繋がったと考える。

樽松委員・・・ 一度テレビでも紹介されたと記憶している。それも応募者増加の一因ではないか。

事務局・・・ 平成30年度以降の目標設定については、庁内の推進委員会で検討しながら方向性を示したい。

委員長・・・ いきいき健康ポイント制度の目標値の設定については、予算との兼ね合いもあると思われるが、これからは増加が見込まれることから拡充を期待したい。

副委員長・・・ 認知症サポーター養成講座について、養成されたサポーターがどのように活動していて、支援を必要としている人にどのように周知しているのか知りたい。

事務局・・・ この事業は、認知症に対する理解を深め、認知症の方への接し方などを啓発する講座であり、具体的な役割をもって支援をしていく人を養成する講座ではない。養成講座を受けた方にはバッジ等が配られ、認知症の方を見かけたときに声をかけるなど温かい目で見守るのがサポーターの役割となっている。

委員長・・・ 実績値として5,879人が受講されたのか。

事務局・・・ 5,879人は過去からの累計値となっており、平成29年度は995人が受講した。また、過去には小学校の授業においても本講座が開催されたことがある。

副委員長・・・ 認知症の方がハローワークに来られることもあり、もう少し積極的なサポートを受ける事ができないかと思い質問をしてみた。

事務局・・・ サポーター養成講座とは別に、サポーターを養成するための講師役となるキャラバンメイトを要請する取組はあるが、サポーターに具体的な依頼をするという制度ではない。個々のケースにもよるが、ご家族が地域包括支援センターや介護事業所の支援を受けたいと相談に来られても、ご本人が拒絶するケースも多々あり、難しい分野である。

委員長・・・ 認知症についての理解を深め地域でどう支援できるかが重要である。認

知症を理解した上で、サポーターが増えることにより地域で自然に認知症をサポートできる体制が生まれる。その結果認知症にやさしいまちになることが、この制度の目指すところである。

こうしてみると、基本目標4については、地域で安全かつ安心して暮らせる基盤づくりが目標であることがわかる。これがないといくら雇用を生み出しても、観光を推進しても、子育て支援が充実しても、ここで生活していこうとするモチベーションに繋がらない。そういう意味では非常に大事な要素かと思う。

山内委員・・・安全・安心の話が出たが、若い母親と子どもが安心して遊べる公園が必要だと考える。睦橋の下流に福生市の公園があるが、そこでは遊具などは置かず、原っぱにしてある。そこを通る機会が多く、小さな子どもたちが喜んで遊んでいる姿をよく見かける。そこからくじら運動公園までは昭島市の市域になるかと思われるが、草が生い茂っているのみで何もない。遊具を取り揃えた立派な公園とする必要はないが、原っぱと樹木とベンチぐらいがあれば心休まる公園ができるのではないかと。高齢者にとっても憩いの場所となる。

委員長・・・総合戦略において、子育てをサポートするといったソフト面の充実は多く記載されているが、意外と水と緑が感じられるような「場」の整備というものが、記載されていないように感じる。今後そういった方向性も必要になってくるかもしれない。例えば、奥多摩町や岩泉町などとの連携の中でできるかもしれないし、市内にもそのような場があれば昭島の水や緑がより強調できるのではないかと思う。

事務局・・・河川敷の利用については自然環境を保護する区域に指定されていたりと、利用の制限もあり、新たな整備は難しい面もある。市内にはすでに拝島自然公園や市民プールの下流の多摩川の土手の下にも、山内委員がイメージする原っぱのような公園もあるので、そういった公園の認知度を高めることも必要だと考える。

委員長・・・過大な施設を配置するのではなく自然を楽しむ場があれば良いのであって、逆に何かを取り除いていく逆転の発想があってもいいのではないかと考える。

(2) 重要業績評価指標（K P I）の変更等について

○事務局より資料に基づき、説明

委員長・・・これまで本委員会において委員の皆様からいただいたご意見がまとめられている。ご意見やご質問があればお願いしたい。

（各委員が内容を確認）

委員長・・・特にご意見等がなければ、この案で報告書に記載したい。よろしいか。
（一同承認）

(3) 平成30年度（平成29年度事業）昭島市総合戦略評価報告書（案）について

○事務局より資料に基づき、説明

委員長・・・委員の皆様には報告書（案）を読み込んでいただき、事務局から提示のあった8月23日（木）までに、ご意見等を事務局にお寄せいただきたい。

樽松委員・・・一点だけよろしいか。7ページのたま工業交流展への参加企業数について、平成28年度と記載されているが、平成29年度ではないか。

事務局・・・ 確認し訂正したい。事務局においても全体的にもう一度精査し、いただいたご意見と本日の議論を踏まえた形で取りまとめ、最終的には正副委員長と事務局で調整し、報告書としてまとめていきたい。

山内委員・・・ 1 ページに「転入超過にあり、本市の人口減少に歯止めをかける要因の一つとなっている。」と記載されているが、これは立川基地跡地に法務省関係施設が建てられていることが背景にあるのか。

事務局・・・ 平成25年度から平成29年度までの過去5年間において、転入超過傾向にある。立川基地跡地の開発は増加要因の一つではあるが、総合戦略策定時点ですでに転入超過傾向であった。

山内委員・・・ 昭島市は住みやすいんでしょうかね。

事務局・・・ 市民意識調査によれば8割を超える方に「住み続けたい」と答えていただいている。住宅都市としては比較的良好な環境にあると考えている。

委員長・・・ 他に気が付いた点があれば、期限までに事務局にご連絡をお願いしたい。

(4) 計画期間の延伸について

事務局・・・ 総合戦略は、人口ビジョンも含めて平成27年度から平成31年度までの5か年計画として策定したが、上位計画である第5次昭島市総合基本計画が平成32年度をもって10年間の計画期間が満了することとなっている。本来であれば、平成31年度をもって計画期間が満了する総合戦略を先に見直すこととなるが、上位計画との整合性を図るために、総合戦略の計画期間を一年延伸し、平成32年度までの計画とし、総合基本計画の策定と合わせて、総合戦略の見直しも図りたいと考えている。

総合戦略の計画期間の延伸についてご意見を伺いたい。

委員長・・・ どの市においても、総合基本計画との整合性を図りながら総合戦略の見直しを進めて行くと思われる。是非色々な例を参考にしながら、良い形で取り込めると良いと感じる。また、今回本委員会でも出されたアイデアなどを総合戦略のみならず、総合基本計画にもフィードバックしていただきたい。

併せて、人口減少という大変厳しい問題に対して、いかに戦略的に対応していくかということがテーマである。そういった問題意識を十分に総合基本計画の中でも持っていていただき、そこで出てきた方向性にしっかりと取り組んでいただければと思う。議題(4)については、よろしいか。

(一同承認)

3. その他

事務局・・・ 先ほど議題の中で申し上げたとおり、報告書(案)については、8月23日(木)までにご意見をいただきたい。また、本日の委員会での内容も報告書の形でまとめ、各委員に確認させていただく。これについても期限を区切ってご意見をいただきたい。それらを踏まえて、正副委員長と調整の上、報告書を取りまとめたい。

さらに、9月10日(月)に開催される市議会定例会総務委員協議会において報告書(案)を報告し、その後、市長へ委員長から正式に報告する予定であるので、よろしくお願いしたい。

企画部長挨拶・・・ 松本委員長、八戸副委員長をはじめ、委員の皆様方には、都合3回にわた

り本推進委員会へのご出席、そして、施策の検証・評価に当たり闊達なご議論を賜り、誠に感謝を申し上げたい。

3回という限られた機会ということで、若干、あわただしいところがあったが、委員の皆様方それぞれ、専門的なお立場から、或いは市民目線に立って、本当に親身に、かつ真摯に、ご意見、ご指摘、ご提案をいただき、平成29年度事業の評価報告書（案）も、取りまとめに一定の目途をつけることができた。

今後については、先ほど事務局から説明があったが、9月10日開催の総務委員協議会において評価書の報告を予定しているので、委員皆様の意見を反映し庁内推進委員会の意見を含め総括したうえで委員長・副委員長と調整を図りながら報告書を完成させていきたい。

今年度はこの会議で終了となるが、あらためて、委員皆様のご尽力に心から感謝するとともに、計画期間の延長についても一定のご理解をいただいた中で、その議論もしながら来年度も引き続きよろしくお願いしたい。

4. 閉会

委員長・・・以上をもって、第3回総合戦略推進委員会を閉会とする。